

第3次 今治市総合計画

令和8(2026)年3月

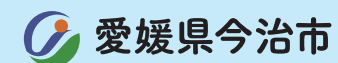


愛媛県今治市

第3次 今治市総合計画

令和8(2026)年3月

瀬戸内しまなみから世界へ
夢が行き交うまちIMABARI
～みんなのふるさと、つむぐ未来～



愛媛県今治市

このたび、令和8(2026)年度から令和17(2035)年度までの10年間を計画期間とする「第3次今治市総合計画」を策定いたしました。

[illegible]

第1章	総合計画の策定にあたって	1
	Ⅰ 総合計画策定の目的	1
	Ⅱ 総合計画策定の位置づけ	1
	Ⅲ 計画の構成と期間	2
第2章	総合計画策定の背景	3
	Ⅰ 今治市の歩み	3
	Ⅱ 今治市の特徴	5
	Ⅲ 今治市をとりまく社会情勢	6
第3章	今治市の目指す姿	9
	Ⅰ 将来都市像	9
	Ⅱ まちづくりの施策大綱	11
	施策大綱 1	
	夢やふるさとへの誇りを持ち、市民が主役のまちづくり	11
	施策大綱 2	
	魅力にあふれ、住み続けたい、帰ってきたいと思えるまちづくり	12
	施策大綱 3	
	世界に誇れる強みや魅力を醸成し発信するまちづくり	13
	施策大綱 4	
	安全・安心で快適に暮らせるまちづくり	14
第4章	施策体系	15

瀬戸内しまなみから世界へ 夢が行き交うまちIMABARI

～みんなのふるさと、つむぐ未来～



I 総合計画策定の目的

本市は平成17(2005)年1月16日に、12市町村の大合併により現在の市域となり、令和6(2024)年度に合併20周年を迎えました。

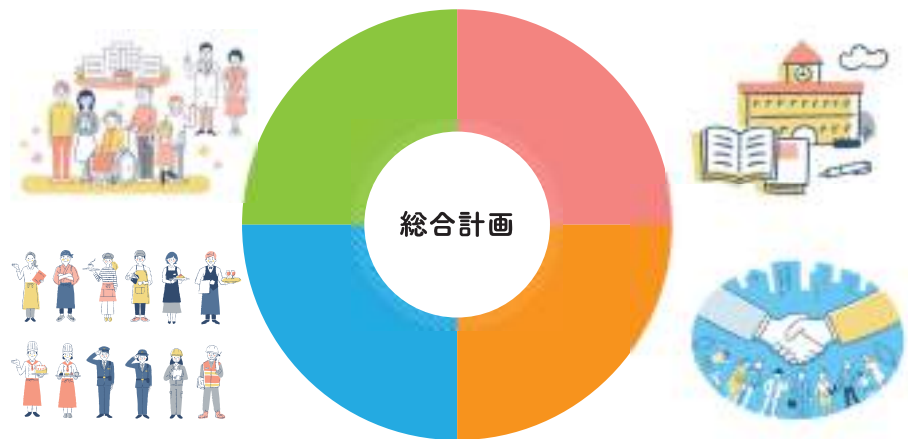
本市は合併後、平成18(2006)年度に第1次総合計画を策定、平成28(2016)年には、第2次総合計画を策定し、誰もが住み続けたいまちづくりを推進してきました。

しかし現在、深刻化する人口減少・少子高齢化、世界情勢の変化、急速に発展するデジタル技術、環境配慮や防災意識の高まりなど、本市を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、これまでの20年間継続して直面している課題に加え、新たな課題も浮き彫りとなっています。

総合計画は、市の大きな方向性を定めるまちづくりの羅針盤です。本市の自然・文化・歴史などの良さを継承しながら、「いま」という時代の流れにしっかりと向き合いながら、これからの今治市を市民の皆様とともに創っていくため、第3次総合計画を策定します。

II 総合計画の位置づけ

総合計画は、福祉、教育、産業、まちづくりといった地方公共団体が行う施策すべてを網羅し、市の大きな方向性を定める最上位計画に位置付けられます。本計画で定めた目標や方向性を前提として、各施策分野の個別計画において具体的な取組みなどを詳細に決めていきます。



イラストはイメージです。

III 計画の構成と期間

第3次総合計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3段階で構成されます。

基本構想では、本市の特性やとりまく社会情勢などを整理したうえで、令和17(2035)年度までの10年間で目指すべき将来都市像と、その実現に向けたまちづくりの施策大綱を定めます。

基本計画では、基本構想を実現するための基本目標やそれを実現するための施策を定めます。基本計画は、時代の変化に沿った形とするために、令和12(2030)年度までの前期基本計画と、令和17(2035)年度までの後期基本計画の各5年間の構成とします。

実施計画は、基本計画で示した施策の中で実施する具体的な事業、達成目標を定めます。実施計画は、3年間で計画期間としつつ、個別の事業の進捗状況や社会情勢等を考慮しながら、毎年度見直しを行います。

第3次総合計画

基本構想

令和8(2026)年▶令和17(2035)年度までの10年間

- 本市の特性やとりまく社会情勢などを整理
- 令和17(2035)年度までの10年間で目指すべき将来都市像
- 実現に向けたまちづくりの施策大綱を制定する

基本計画

前期基本計画／5年間

後期基本計画／5年間

- 基本構想を実現するための基本目標やそれを実現するための施策を制定する

実施計画

3年間

3年間

3年間

- 基本計画で示した施策の中で実施する具体的な事業、達成目標を定める。
実施計画は、3年間で計画期間としつつ、個別の事業の進捗状況や社会情勢等を考慮しながら、毎年度見直しを行います。



イラストはイメージです。

総合計画は、これから10年間の市のまちづくり全体の方針を定めるものです。本章では、その前提となる、本市のこれまでの歩みや特徴を振り返るとともに、目まぐるしく変わる本市を取り巻く時代の流れを整理します。

1 今治市の歩み

① 第1次総合計画期間（平成18（2006）年～平成27（2015）年）

ゆとり彩りものづくり みんなで奏でる 海響都市 いまばり

本市は、平成17（2005）年の12市町村の合併により現在の市域を形成しました。

その翌年となる平成18（2006）年に本市と広島県尾道市をつなぐ瀬戸内しまなみ海道が全線開通し、同年12月に第1次総合計画を策定しました。また平成21（2009）年には、西日本初の海事県となったBARI-SHIP（バリシップ）や、瀬戸内しまなみ海道開通から8年後となる平成26（2014）年には、しまなみ海道を自転車でするサイクリングしまなみ2014など、合併により生じたメリットを最大限に活用し、様々な大規模イベントを開催し、市を発展させてきました。



イラストはイメージです。

② 第2次総合計画期間（平成28（2016）年～令和7（2025）年）

ずっと住み続けたい“こちいい（心地好い）”まち いまばり あの橋を渡って 世界へ 未来へ

平成28（2016）年に第2次総合計画を策定して以降は、同年にイオンモール今治新都市、みなと交流センター（ハーバー）のオープン、平成30（2018）年に今治市クリーンセンター（バリクリーン）が本格稼働を開始、令和5（2023）年には、FC今治の本拠地となる里山スタジアムが完成するなど、着実に市の賑わい創出に向けた都市機能の拡充を進めてきました。

また、令和4（2022）年度にはせとうちみさとマルシェを初開催し、港を中心としたまちの賑わいづくりに取り組むほか、令和5（2023）年には株式会社今治あきない商社を設立するなど、市の産業の活性化にも努めてきました。

◎2005（平成17）年 … 合併により現在の今治市が誕生

第1次総合計画期間

- 2006（平成18）年 … ●第1次今治総合計画策定
●瀬戸内しまなみ海道全線開通
- 2007（平成19）年 … ●「今治タオル」商標登録
●今治タオルブランド認証マーク完成
- 2009（平成21）年 … ●西日本初の海事県「BARI-SHIP（バリシップ）」初開催
- 2012（平成24）年 … ●バリさんがゆるキャラグランプリ優勝
- 2014（平成26）年 … ●サイクリングしまなみ2014開催



第2次総合計画期間

- 2016（平成28）年 … ●第2次今治総合計画策定
●イオンモール今治新都市、みなと交流センター（ハーバー）オープン
- 2018（平成30）年 … ●バリクリーン本格稼働開始
- 2019（令和元）年 … ●しまなみ海道がナショナルサイクルルートに指定
●FC今治がJ3に参入決定
- 2022（令和4）年 … ●せとうちみさとマルシェスタート
●今治開港100周年
- 2023（令和5）年 … ●里山スタジアム完成
●株式会社今治あきない商社の設立
●住みたい田舎ベストランキング4冠達成
- 2024（令和6）年 … ●しまなみ総合庁舎完成
●日本子育て支援大賞2024受賞



2026（令和8）年

第3次総合計画策定 新たなステージへ

II 今治市の特徴

1 今治市の地勢

本市は、愛媛県の北東部、瀬戸内海のほぼ中央に位置しています。市域は高縄半島と芸予諸島にまたがり、中心市街地がある平野部をはじめ、緑豊かな山間部や、本州と直結する瀬戸内しまなみ海道、安芸灘とびしま海道が架かる美しい多島景観を誇る島しょ部など、全国的にも類を見ない多様な地勢を有する地域です。沿岸部では賑わいを見せる今治港や地場産業を支える工業地が形成され、島しょ部ではしまなみの豊かな景観とサイクリングをはじめとした観光資源が国内外から多くの人々を惹きつけているなど、様々な特徴が調和し、地域全体として豊かで魅力あるまちづくりが進められています。

2 独自色豊かな産業

本市は、日本最大の海事都市として我が国の海事産業をけん引しています。また、日本一の生産量を誇る今治タオルは、国内外に広く知られ、本市の代名詞ともなっています。

造船や海運、タオル産業以外にも、石油・ガスなどのエネルギー産業や食品産業においては、全国的な競争力を持つ企業も複数所在しているほか、菊間瓦や桜井漆器、大島石といった伝統産業も大切に受け継がれています。

さらに、美しい瀬戸内海や里山などの自然環境を生かした農林水産業も盛んであり、農作物や豊富な魚介類を生かした「食と農のまちづくり」にも取り組んでいます。

3 魅力的な自然景観

本市では、東洋のエーゲ海ともいわれる瀬戸内海の多島美を始めとした魅力的な自然景観があります。これらの自然景観を眺望できる瀬戸内しまなみ海道は、「サイクリストの聖地」として、国内外を問わず多くのサイクリング客が訪れる、本市のシンボリックな観光資源です。

さらに、玉川の山間地域には、肌にやさしい泉質で「美人の湯」として親しまれる鈍川温泉や、秋には鮮やかな紅葉が広がる鈍川渓谷など、自然の恵みが点在しています。これらの景観は、訪れる人々に癒しと感動を与えるとともに、本市の豊かな自然の魅力を余すところなく伝えています。

4 今治ブランドの発信

本市独自の特色ある魅力をブランディングし、国内だけでなく世界に向けて情報を積極的に発信しています。併せて、市の施策のプロモーションにも力を入れており、令和6（2024）年には、一般社団法人日本子育て支援協会が選ぶ「第5回日本子育て支援大賞2024（自治体部門）」を県内初受賞しました。さらに、「住みたい田舎ベストランキング」（人口10万人以上20万人未満のまちランキング）においても、総合部門、子育て世代部門、若者世代・単身者部門、シニア世代部門の全4部門で令和5（2023）年から3年連続1位を獲得するなど、日本全国から注目を集める市となってきています。

5 未来へと進める地域の力

この地には、穏やかな海と緑豊かな山々に抱かれた自然の中で、温かく人情味あふれる人々が暮らしています。昔ながらの助け合いやご近所付き合いが今も息づき、人との絆を大切にす文化が根付いています。さらに、歴史の中で新たな価値を見出し、挑戦を重ねてきた先人たちの進取の気性が、地域に根付いており、その姿勢は、今もなお、ものづくりや地域づくりにおいて生き続け、未来へと前進する地域の力となっています。

III 今治市をとりまく社会情勢

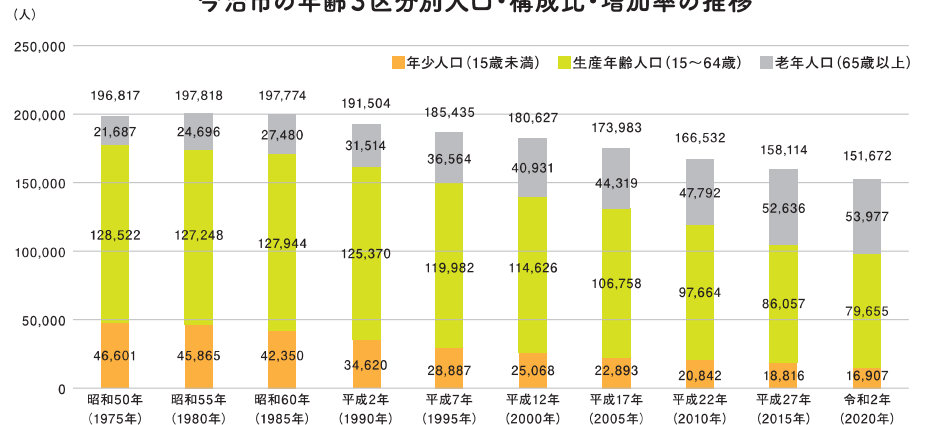
第2次総合計画の期間は、新型コロナウイルス感染症の蔓延、AIをはじめとするデジタル技術の進化、持続可能な開発目標（SDGs）の一般生活への浸透・定着など、人々の暮らしや価値観が大きく変わった激動の期間でした。一方で、こうした社会情勢は、常に変化し続けています。この項目では、本市を取り巻く社会の動きや時代の変化について整理します。

① 人口構造の変化

わが国の総人口は、平成20（2008）年をピークに減少局面に入っており、令和5（2023）年時点で約1億2,435万人と、平成20（2008）年時点から約2.9%減少しており、今後も減少を続ける見込みとなっています。

本市においても、合併以後継続して人口減少・少子高齢化が進んでいます。合併直後の平成17（2005）年時点での人口が約17万人であったのに対し、令和2（2020）年時点での人口は約15万人まで減少しました。本市では、令和6年（2024）年度に人口ビジョンを策定し、出生率や転入・転出数の改善目標を設定し、人口定常化に向けた取組を進めていくこととしています。

今治市の年齢3区分別人口・構成比・増加率の推移



資料：「国勢調査（総務省統計局）」各年10月1日現在

② 物価高騰

わが国の消費者物価は、新型コロナウイルス感染症の流行やロシア連邦によるウクライナ侵攻などの影響により、令和3（2021）年以降大幅に高騰しています。このような物価高騰は、市民の日常生活に大きな影響を与え、生活困窮や消費の抑制などにつながっているほか、建設コストの高騰など、地方公共団体における公共事業においても大きな影響を与えています。

特に、海事産業やタオル産業などの製造業が盛んな本市では、原材料の価格高騰が企業の生産コストに直接的な影響を及ぼしています。また、本市においては、地域の生活を支えるためのインフラや公共施設の老朽化対策に多くの費用を要する見通しであり、今後の市の財政圧迫が懸念されます。

③ カーボンニュートラルへの機運の高まり

国においては、令和2(2020)年10月、「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言し、令和3(2021)年10月には、地球温暖化対策計画を閣議決定し、令和12(2030)年度において温室効果ガスを46%削減、令和32(2050)年にカーボンニュートラルを達成することを正式に目標として掲げました。

本市においては、令和5(2023)年11月に、「今治市ゼロカーボンシティ宣言」を行ったほか、令和7(2025)年度に環境省が選定する脱炭素先行地域に選定されるなど、CO2排出量実質ゼロを目指した取組を進めています。

④ 防災対策の機運の高まり

令和6(2024)年1月の能登半島地震をはじめとした地震・津波や、台風・豪雨、土砂災害など、自然災害による被害が全国で数多く発生しています。また、今後発生が想定される南海トラフ巨大地震への対策として、防災対策への機運は年々高まっています。

本市は、多様な自然に恵まれた立地である一方で、沿岸部での津波被害リスクや山間部での土砂災害リスクを抱えています。また、令和7(2025)年3月には、過去最大規模の林野火災が発生しました。人口減少が進む中、地域の防災意識の向上や防災拠点の整備など、今後起こり得る被害を考慮した防災対策が求められています。

⑤ デジタル技術の活用による地方創生

近年、AIをはじめとするデジタル技術が日々発展を遂げており、社会を取り巻くデジタル技術は目まぐるしく変化しています。国においては、令和3(2021)年に、デジタル社会をけん引し、未来志向のデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進する組織としてデジタル庁が発足したほか、令和4(2022)年12月には、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定(令和5(2023)年12月改定)し、デジタル技術の活用による地方の社会課題の解決を図っています。

本市は、12市町村の合併により生まれ、市域が広いことから、デジタル技術を用いた行政の効率化や生活の利便性向上が不可欠であることから、今後、ますますの発展が見込まれるデジタル技術を柔軟に取り入れ、地域課題の解決、地方の魅力向上に努めていくことが重要です。



イラストはイメージです。

⑥ ウェルビーイング(Well-being)の重要性の高まり

ウェルビーイング(Well-being)は、「身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること」を意味する言葉であり、一人ひとりが、身体的に健康であるだけでなく、様々な人や社会とのつながりの中で心豊かに幸福を実感できることを表す概念です。人々の価値観の変容により、経済的な豊かさを示すGDPだけでは計測できない個人の主観的な豊かさに注目が集まり、近年、重要な価値基準となっています。

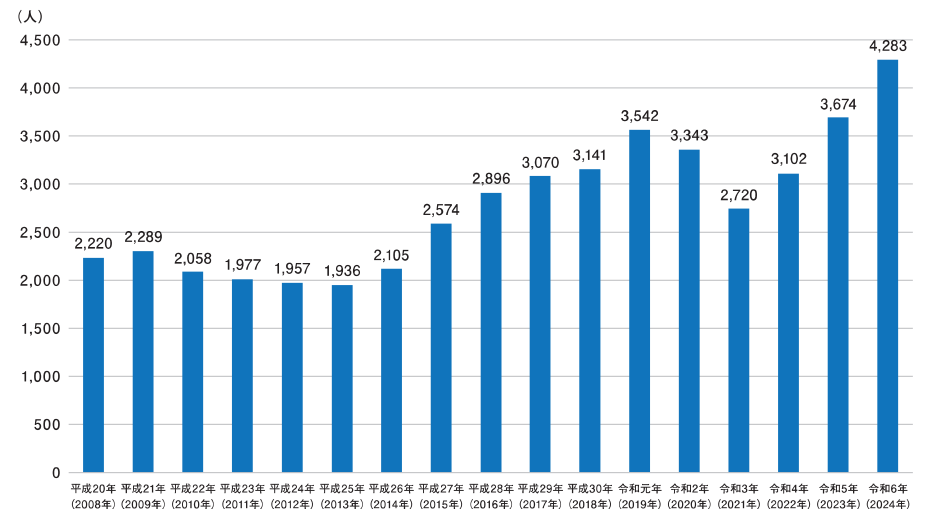
人口減少が進む本市において、市民一人ひとりが心地よく、安心して暮らせるまちづくりがこれまで以上に求められています。本市の特色を活かしながら、暮らしの質を高める取り組みを進めることが、今治の魅力さをさらに引き出し、多くの人に関心を持ってもらうきっかけとなります。こうした「ウェルビーイング」の向上は、地域の持続可能な発展にとって欠かせない要素です。

⑦ 外国人人口の増加

外国人労働者の人口は全国的に増加傾向であり、令和6(2024)年10月末時点において、全国の外国人労働者数は約230万人と過去最多を記録しています。また、コロナ禍以降、円安情勢も相まって、急激にインバウンド需要が増加しています。

本市では、海事産業やタオル産業などの製造業に強みがあるため、それらの業務に従事する外国人労働者が比較的多いことから、近隣の自治体に比べて外国人人口が多い傾向にあります。また、しまなみ海道を中心に観光業に力を入れている本市においては、外国人観光客の誘客は重要となっています。人材確保、観光誘客の両面の観点から、今後ますます外国人にとって魅力あるまちづくりを進めていく必要があります。

今治市の外国人人口の推移



資料:「平成20年～令和4年は今治市の統計、令和5～6年は今治市市民課」各年末現在

将来都市像

今、私たちの社会は大きく変化し、価値観や地域の在り方も多様化しています。そうした時代の中で、私たちのまちも、より良い未来に向けて一歩ずつ前進することが求められています。そのためには、目指す姿を明確にし、市民一人ひとりが力を合わせて歩むことが大切です。

本市では、以下の将来都市像を掲げ、より良い未来を描いていきます。

将来都市像

瀬戸内しまなみから世界へ 夢が行き交うまちIMABARI
～みんなのふるさと、つむぐ未来～

瀬戸内の島々を渡る風が、今治のまちに新しい朝を届ける
港には船の汽笛が響き、しまなみ海道を行き交う人々の背中には、それぞれの物語が揺れている
若者が夢を抱いてまちを出ていき、別の誰かが挑戦を胸にこのまちにやってくる
ある人は、この地に生まれ育ち、ある人は人生の途中で今治を「ふるさと」と呼ぶようになる

このまちには、誰かの想いに寄り添い、そっと支える文化がある
ものづくりの現場で、学校の教室で、島々の風景の中で、活気ある港町で
静かに芽吹いた挑戦が、まちの人々のまなざしと手によって育てられていく

声高に語られることはなくとも、確かな誇りが、このまちを創ってきた
「夢が行き交うまち」とは、そうした日常のなかで育まれる想いが、
まちを越え、時を越えて交差していく姿
ここで生まれた夢が、世界へと広がっていく
また、遠くから夢を抱いて今治を選ぶ人もいる
このまちが、誰かの「原点」であり、
誰かの「目的地」でもある
それこそが、今治と私たちが目指す未来の姿

未来のIMABARIをみんなとともに

この将来都市像をもとに、これからの10年をどう歩んでいくかの道しるべを描きながら、皆様と一緒に明るい未来を思い描き、実現していきたい3つの大切な想いがあります。

① 世界に誇れるまち

本市には、海事産業や今治タオル、しまなみ海道など、世界に通用する他にない地域資源や魅力があります。こうした地域資源をさらに磨き上げ、新しい魅力や価値を生み出し、国内外から注目されるような「誇れるまち」を目指します。それは単に観光や産業の拠点として認知されるだけでなく、ここに暮らす市民一人ひとりが「今治に住んでいることが誇らしい」と感じられるまちにしたい、という思いが込められています。「今治の魅力をもっと広めたい」「自分のふるさとを自慢したい」と胸を張って語れる地域に、皆様と一緒にしていきたい。さらに、国際的にも多様な価値観や文化を受け入れるまちを目指し、交流を通じて地域に新たな風を呼び込みます。「IMABARI」という名前が世界の人々に親しまれ、訪れる人も住む人も誇りを感じられる、そんな未来を描いていきます。

② 夢を育み、応援するまちを目指す

夢は特別なものではなく、日々の暮らしの中で生まれるもの。本市は、夢を育み、それを応援することを通じてまち全体を活気づける場所でありたい。将来都市像にある「行き交う」という言葉には、このまちから生まれた夢が外へ羽ばたくだけでなく、その夢に共感した人々がこのまちに訪れたり、新たな夢を求めて帰ってくる場所になってほしいという願いを込めました。夢を持つ人々が集い、互いに刺激を受け、そして次の夢へとつながる素敵なサイクルをつくることで、みんながいきいきとした活力あるまちになる。夢に向かう一歩を踏み出せるまちであるために、教育、チャレンجز支援、安心できる暮らしの環境づくりなど、未来に向けた挑戦を後押しする土壌をしっかりと築いていきます。

③ ここに居続けたいと思えるふるさと

ふるさとは、生まれ育った場所だけでなく、いつでも「帰ってこられる」と思える心の拠り所でもあります。住む人々が日々の暮らしを心地よいと感じ、「このまちでずっと暮らしたい」と思えたり、一度市外に出た後も「また帰ってきたい」と思える魅力を持つまちを目指します。豊かな自然と美しい景観に囲まれたこのまちは、ゆっくりとした時間が流れ、人々の温かさが日々の暮らしをより豊かにしていける、そんな魅力があります。

世の中が大きく変わっていく中でも、快適で、安心して暮らしていける生活基盤を整え、「このまちで暮らせてよかった」と感じるような空間づくりを進めていきます。こうした雰囲気や環境は、次の世代や市外から訪れる人々へと確かに受け継がれます。「人の行き交い」の中で、ふと立ち止まったときに「やっぱり今治がいい」と感じられるような、心のふるさとでありたい。

これまでともに今治市をつむいできた皆様や新たにこのまちに暮らしの場を求めた方々とも手を取り合い、世代を越えてつながり続ける“ひらかれたふるさと”を目指します。



イラストはイメージです。

将来都市像の実現に向け、3つの想いをともに、皆様が日々の暮らしの中で実感できるものにするため、本市が進めていく施策を次の4つの大綱に整理しました。

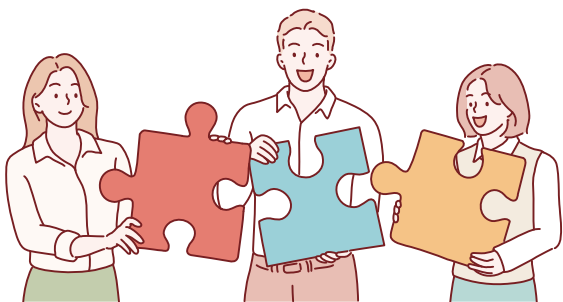
施策大綱 1

夢やふるさとへの誇りを持ち、 市民が主役のまちづくり

「このまち、やっぱり好きかもしれない」
そんな何気ない気持ちが、ふとした行動のきっかけになる
そんなふとした行動が、まちを動かしていく

市民一人ひとりが「このまちが誇らしい」と思えるようなまちづくりを進めます。朝、近所の人と目が合えば、あいさつを交わす。仕事帰りには、地元の話題に少し耳を傾けてみる。子どもと出かけたイベントで、顔見知りと笑い合う。それぞれの暮らしの中で、少しずつまちと関わる機会があります。

そんな暮らしの中で、「このまちで、愛する人たちと共に人生をつむいでいきたい。」「このまちのいいところをもっと知りたい」「このまちの人ともっと楽しみたい」、そう思えるような人と活気あふれるまちをつくりたい。子育ての希望を叶えられる制度が整っている、子どもたちの夢を育む教育環境がある、スポーツや文化活動、学習を通じてみんなが生きがいをもって暮らすことができる。「人」の魅力が原動力となり、心が通い合う「つながり」のあるまちづくりを大切にしながら、市民自身が未来をつくる「主役」として輝ける「まち」を創っていきます。



イラストはイメージです。

施策大綱 1 夢やふるさとへの誇りを持ち、市民が主役のまちづくり

施策大綱 2 魅力にあふれ、住み続けたい、帰ってきたいと思えるまちづくり

施策大綱 3 世界に誇れる強みや魅力を醸成し発信するまちづくり

施策大綱 4 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり

施策大綱 2

魅力にあふれ、住み続けたい、 帰ってきたいと思えるまちづくり

「このまち、やっぱり落ち着く」
帰省の際、家族や友人との会話の中で、そんなつぶやきがこぼれる
何気ない日常の風景が、“帰りたくなる理由”になる

今治には、自然や歴史、あたたかな人のつながり、そして自分らしく暮らせる余白があります。しかしその魅力は、暮らしに余裕があり、安心して生活できる環境が整っていてこそ実感されるものです。「この場所でずっと暮らしていける」そんな安心が揺らげば、「住み続けたい」「帰りたい」という気持ちは次第に遠のいてしまいます。

市民の方々が「住み続けたい」、「帰ってきたい」と思えるよう、市民生活の基盤を整え、市民全員が支えあい暮らしていける魅力あるまちをつくりたい。まちの福祉や医療体制が整っている、辛いときにも頼れる制度がある、人と人とのつながりがある。将来に不安を感じることなく、誰もが自分らしく健康的でいきいきと暮らせるまちにしたい。

帰ってきたい今治を守り続けるために、福祉や医療、地域コミュニティ、脱炭素、循環型社会の実現、デジタル技術を活用した持続可能なまちづくりに取り組んでいます。



イラストはイメージです。

世界に誇れる強みや魅力を醸成し 発信するまちづくり

「海の向こうで笑っている誰かのそばに、このまちがあるって、
なんだか誇らしいよね。」
世界を行き交う船や、ふわふわのタオルに、
この地で育まれた技と誇りが息づいている。
そんな“IMABARI”の魅力が、今、世界へと羽ばたいていく。

今治には、他にはない強みと、誇れる資源があります。ただ、それを知っているのは、意外と“外の人”
かもしれません。だからこそ、今治の中にいる私たち自身が、まちの価値にあらためて気づき、磨き、育
て、そして自信を持って発信していく必要があります。

唯一無二の個性を生かして、国内外から「関わりたい」「行ってみたい」と思われるまちにしたい。海
事産業や今治タオルといった地場産業で地域経済が盛り上がる、先人がつむいできた伝統産業が新
たな価値につながる、今治からこれまでにない発想の事業やイノベーションが生まれる、美味しい農産
物や海産物と豊かな自然に魅せられ、今治を訪れる人がもっと増える。地域全体が活気づき、日本を飛
び越え、世界から選ばれるまちへと成長していくことを目指します。



イラストはイメージです。

安全・安心で快適に暮らせる まちづくり

「便利なまちになったなあ」「この辺最近すごくにぎわってるね」
時代が進むにつれ、まちもアップデートされていく
そんなまちを支える、変わらない安心感がある

今治には、中心市街地や郊外の住宅地、農山村地域に加えて、島しょ部もあります。地形や人口構
成、生活環境が異なるそれぞれの地域で、時代に合わせてまちを変化させていくとともに、安全・安心
な暮らしをどのように支えていくかは、今治全体の持続可能性に関わる重要な課題です。

暮らしの中で、不自由や不安を感じることなく、当たり前の毎日を当たり前に過ごすことが できる
まちをつくりたい。にぎわいのあるまちなかを歩くことができる、どこからでも市内のいろんなところに
自由に移動ができる、道路や水道などの生活インフラが何不自由なく使える、災害や犯罪などに対して
もしっかりと備えができています。そんな当たり前の快適な生活を実感できるまちを目指します。

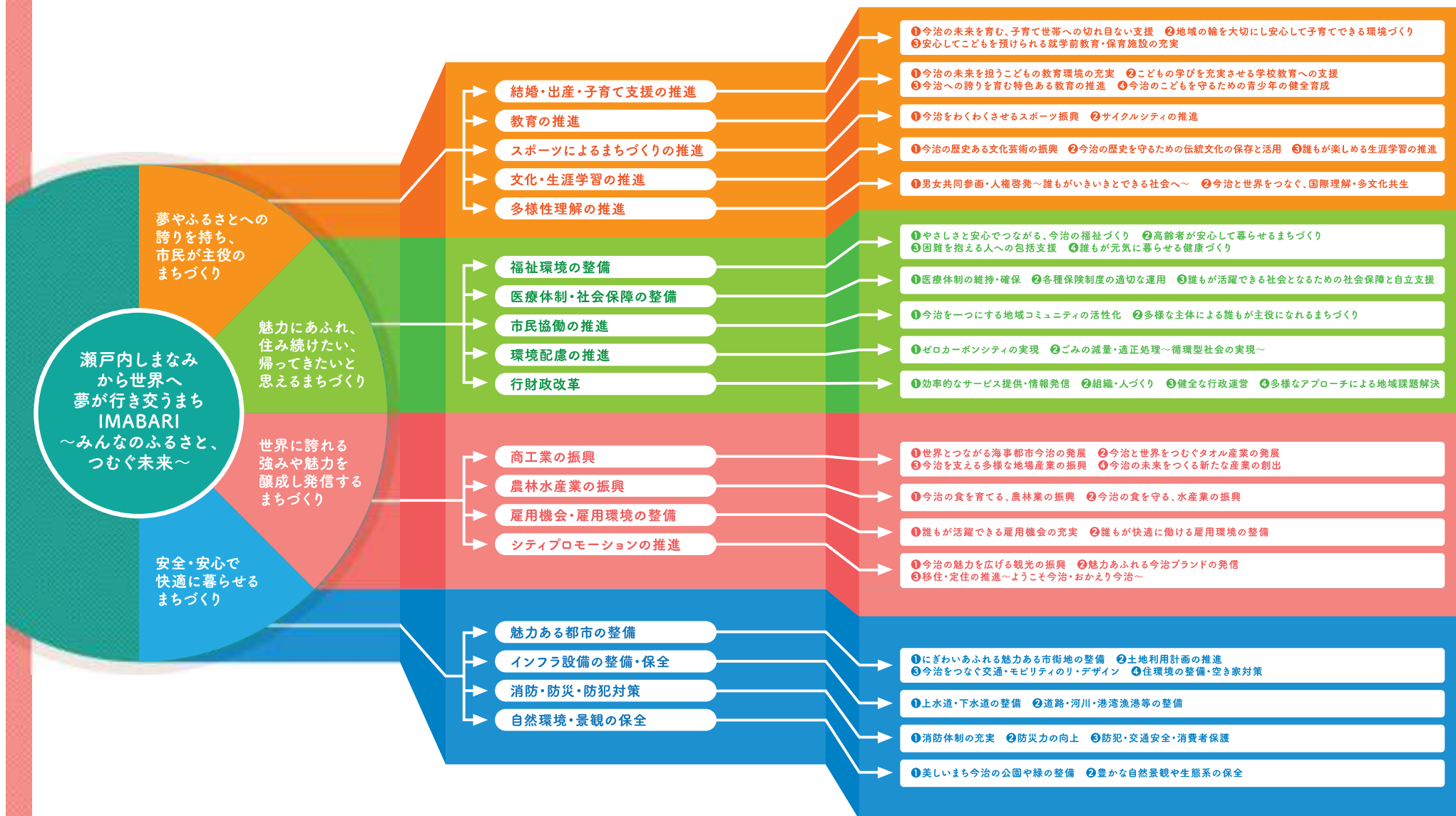
子どもたちは豊かな自然の中でのびのびと遊び、大人たちは美しい景色に癒されながら、心ゆくまで
ゆったりとした時間を共に過ごす。そんな変わらない今治の魅力を守り、誰もが年齢や立場に関係な
く、安心して日常を送れる「まち」を創っていきます。



イラストはイメージです。

今治市が目指す将来都市像と、それを実現するための方向性である4つの施策大綱を踏まえ、それぞれの施策大綱ごとに達成したい基本目標と施策を定めました。

今後、今治市を取り巻く社会情勢が変化し、市民ニーズが複雑化・多様化していく中でも、デジタルをはじめとした新しい考え方や技術を積極的にとり入れながら、皆様とともに市全体が一丸となって施策を推進し、「瀬戸内しまなみから世界へ 夢が行き交うまちIMABARI ～みんなのふるさと、つむぐ未来～」の実現を目指していきます。



Mumo

